

これまでの回収実験で、最短時間の回収記録であった。

2回目の7月24日の実験では、70 mb で採集、57 mb で切り離しをした。上層の風系が変わり目に当たっていたことにより、落下地点は予測地点より南南西に3 km 程ずれた。回収班は、回収用受信機を使って移動し、落下前には発見することができた。しかし、落下地点は、視界が阻まれたために確認できなかった。落下前の動きから、およそ200 m 四方の位置を目測で推定した後、現場で回収用受信機を使って探索した結果、ある民家の竹林から電波が発信されていることを確信した。真下と思われるところでも、容易には視認できなかったが、その住人に協力を願って探索した結果、竹林の上にかくれたゾンデを発見、回収に成功した。この実験の場合、回収用受信機がなければ、観測者自身による発見はおろか、住人による発見も相当遅れたと思われる。回収用受信機の威力をまざまざと見せつけた実験であった。

5. おわりに

この様に、落下位置予測法、及び、回収用受信機の機能を十分に発揮させることにより、実験者自身による回収、しかも落下後時間をおかずに回収することが可能になった。これは、得られる成層圏試料の品質を高める上にも、実験の安全性を高める上からも、きわめて大きな

進歩であった。

成層圏を含む地球大気について大きな関心が寄せられる現在、気球による実験は直接観測という点からますます重要性を帯びてきている。ここで述べたゴム気球を使った実験は、最も簡便な方法であり、さらに改良を重ね安全性を高めつつ幅広い応用を期待したい。

落下位置予測のプログラム開発は、筆者の一人が行ったが、提供が可能である。関心のある方は、問い合わせ願いたい。プログラムは、MS-DOS 上の N88-BASIC で作られており、PC 98 や PC 286 で使用されている。

参考文献

- 広田道夫, 村松久史, 牧野行雄, 外山芳男, 佐々木徹, 1982: ガスクロマトグラフ法による対流圏及び成層圏微量化学成分の分布の測定, 気象研究所技術報告第6号, 第1章, 5-41.
- Hirota, M., H. Muramatsu, T. Sasaki, Y. Makino and M. Asahi, 1988: Atmospheric concentrations and distributions of CF_2Cl_2 , $CFCl_3$ and N_2O over Japan between 1979 and 1986, J Meteor. Soc. Japan, 66, 703-708.
- 三浦四郎, 1966: ゾンデ落下点の推定法, 研究時報, 18, 522-526.

第4回 WCRP シンポジウム開催のお知らせ

本年度も下記の予定で WCRP シンポジウムを開催致します。参加ご希望の方は講演申込先までお申込み下さいますようお願い申し上げます。

記

開催期日: 平成2年11月26日(月) 13:00~17:00

(夕方懇親会)

11月27日(火) 9:00~17:00

11月28日(水) 9:00~16:30

開催場所: 愛知県勤労会館小ホール

(名古屋市昭和区鶴舞1丁目2番32号)

TEL: 052-733-1141(代表)

申込締切: 平成2年10月20日(土) 必着

申込送付先: 〒464-01

名古屋市中千種区不老町

名古屋大学水圏科学研究所

武田喬男

TEL: 052-781-5111内線5740

問い合わせ先: 石坂 隆

TEL: 052-781-5111内線5733または

研究協力事務局

TEL: 052-781-5111内線5709, 5750